

---

# 信じてます

緑水 来夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
信じてます

【Nコード】  
N9415N

【作者名】  
緑水 来夢

【あらすじ】  
親友との友情小説      転入生が来て・・・

信じてます

わたし、鳥羽 優美は桜山 美香さんと夢元 亜衣歌さんと坂方  
成奈さんと鶴夏 奈美さんと春風 海央さんと親友です。

ある日の事

先「席すわれー今日は転入生が来た。 入って。」

泉「わたしの名前は信代 泉です。 よろしくお願ひします。」

ザワザワ

先「しずかに」

5分休み

海「泉ちゃん友達になろう」

優・亜・美・成・奈「友達になろう」

泉「いいよ。よろしくね。」

先「いまから蔵王合宿の話し合いをはじめ。グループごとに集まれ」

海「優行こう。」

優「うん。」

美「亜衣行こ。」

亜「うん。」

泉はほかの班

話開始から2時間たった。

それから数日後 いやいよ蔵王合宿当日

朝早くから学校に集まった。

蔵王合宿（前書き）

作「第1話を読んでいただきありがとうございます。」

優「どうでした」

海「優、あんまり出てないよ」

優「そんなはつきりいわなくても・・・」

亜「ドンマイ」

美「次はいつぱいだしてもらえば・・・」

成「そーだよ」

優「つてことで作者よろしく」

作「よびすてかよ」

亜・成・美・海・泉・奈「じゃあはじまるよ」

## 蔵王合宿

海「ねむー。」

優「ウチも」

亜衣「これから蔵王に行つて登山するのになにいつてるの 笑

成「登山かぁー・・・いやだなぁー」

美「筋肉痛になる」

泉「でも楽しみ」

海・優・亜・成・美「えー」

奈「ウチも楽しみ」

海「そーなんだ」

そして・・・蔵王到着

優「もしかしてあの山に登る・・・の」

美「みたいだね」

海「高ーい」

奈「さっき言ったこと取り消すうー」

泉「ウチも」

成「がんばらないと・・・」

亜「だねー」

山を登り始めてから数分後・・・

優「つーかーれーたー」

海「早っ 後2時間ちかくは、登るんだよ。

優「無理かも・・・」

海「ほーら優、しっかり」

優「はいイー」

30分後・・・

亜「大変だね」

美「そーだね」

亜「つかれてきたなー」

美「わたしもー」

1時間後・・・

成「つかれたなあー」

泉「運動神経いい成奈ちゃんが・・・」

成「そんなこと・・・」

泉「ある」

奈「まだ半分も行っていないらしいよ」

成「そーなの」

時は、たち 頂上・・・。

美「つーかーれーた」

亜「酸素たりないー」

成「酸素おー」

泉「つかれたなあー」

奈「た・・・楽しかったな・・・つかれたけど・・・。」

優「もう歩けなーい」

海「おおげさな・・・」

先「昼食ですよー」

優「やったー、場所とりしよう」

海「歩いてるし・・・。」

優「食べ物のパワーだよ」

海「まだ食べてないけどね」

昼食・・・。

みんな「いっただきまーす」

優「いつもよりおいしく感じるっー」

成「だね」

下山・・・。

蔵王合宿（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

蔵王で・・・（前書き）

作「ども。第2話を読んでくれてありがとうございます。」

泉「作者さ・・・作者、次はどういう話」

作「教えるわけないだろ」

泉「ケチ」

作「うるさい。第3話をみればいいだろ、泉。」

泉「みてくださいでしょ。」

亜「そーいえば、今回男子が新しく出るんだよね」

優「そーなの、作者」

作「そーだよ」

美「へー、あつ、そーだ作者が好きな人出るの」

作「な・・・なぜそれを・・・」

成「凶星だねー」

作「グサ」

奈「アハハ。」

作「グサグサ」

海「顔赤いよー フフッ」

作「やめろおーそれ以上いうなー」

亜・海・優・美・成・奈・泉「じゃあ始まるよ」

蔵王で・・・

海「登って来た場所をおりるのぉー」

美「そーみたい」

優「やだぁー」

亜「じゃあ、ここにいれば^^」

優「え・・・ひどい」

亜「冗談よ」

成「それにしてもおりるの大変だよねー」

奈「大変どころじゃないよー」

泉「そーだよね」

先「帰りはゴンドラですよ」

優「ゴンドラって何？」

海「ゴンドラっていうのは・・・いいづらいなー見れば分かるよ」

優「そーなの」

「ゴンドラも知らねーのかよ」「頭わるっ」「おまえ頭大丈夫」「

頭やばいよ  
「

優「なによ  
「

いまのやつらは佐野 斗和と道山 知輝と久原 凧砂と左畠 実希。

斗「ゴンドラっていうのは……、ほら知輝」

知「え……、凧砂言えよ  
「

凧「なんでだよ。実希言え」

実「なんだよ。斗和が言えよ  
「

海「みんな知らないんじゃない……」

男子「そんなことねー」

美「素直じゃないね  
「

男子「うるせー」

亜「知らないっていえばいいのに」

男子「だから  
「

ガタンガタン      ゴンドラがきた

男子「あれがゴン……」

優・海・亜・美・奈・成・泉「ゴンドラだ！」

しばらくして下山終了……。

そして時はすぎ…… キャンプファイヤー！

海「楽しみ〜」

成「ソーだね」

奈「はしゃ〜じ〜」

美「はしゃぐのは……」

奈「だめ？」<下から目線をお願いポーズ>

美「うう……少しね」

凧「美香こつちだぞ」

美「あ……うん／＼／」

知「優美こつちだぞ、はやくならべ。」

優「うん／＼／」

キャンプファイヤーが終わるころ……。

海「寒っ」

斗「ほら貸すよ」

斗和はパーカーを貸した。

海「あ……ありがとう／＼／」

蔵王で・・・（後書き）

作「読んでくれてありがとうございます。」

海「斗和にパーカー返さなきゃ」

作「よかったね！貸してもらえて」

海「／／／なつ／／／ 作者はどうなんだよ」

作「なにが」

海「好きな人出たのか？」

作「なつ／／／出てるわけ・・・ないだろ・・・（本当の名前だすわけないだろ）」

海「ほんとうかなあ　ちなみに作者の好きな人は・・・」

作「やめろおおおお、それ以上はああああ」

海「フフフッ！」

作「すこし悪魔が・・・」

海「なんかいったあ？」

作「なんでもないですう」

優「身分かわってる」

亜「ドンマイ、作者」

美「元気だせって」

成「まあ気にすんな」

奈「ウチも知ってる」

作「やめ〜い・・・うっ」

奈「わーっ泣かないで」

泉「泣かせちゃった」

作「泣いてないけどお〜・・・うっ」

作「ではまた第4話で会いましょうっ！ うっ」

学校到着！（前書き）

作「ども」

奈「みなさん元気〜？」

優・海・成・美「元気じゃない〜。」

作「ゲホゲホッ！」

奈「げっ……作者もかよ……。」

学校到着！

海央は斗和にパーカーをかえした。

次の日

朝早く音楽がながれ・・・。

優「ふわー。ねむー」

海「ウチも」

美「ふわー。」

亜「ねむいね」

成「本当にねむい・・・。」

奈「うん」

泉「ふわー」

ねむいしか言いようがない。

そして朝会（？）が始まった。

みんな口に手をあてあくびをしている。

時間はたち朝会は終わった。

次は各部屋で少し休み、野外炊飯。

奈「野外炊飯楽しみ〜！」

優「ウチも〜！」

成「男子がいるけどねー」

泉「いやだー女子だけがいいー」

美「そーだね」

亜「アハハ・・・。」

海「まあまあ」

優「でも楽しもう〜！」

男子「おれ、ピーマンのたねとる」

奈「いいよ」

そして・・・

全員「できた〜！」

男子「早く食べようぜ」

全員「いったただつきまゝす！」

海「うんまーい」

優「おいしいね！でも……こげてる……うん、いや、生！？」

亜「アハハ……。」

成「わたしもこげてるのあるー！」

美「ウチ生……。」

泉「……パクパク……。」

奈「無言！？」

泉「パクパク……？」

亜「いずはこげてるのも生なものないんだね……。」

泉「パクパク……？」

先「おかわりいっぱいあるのでおかわりしてください！」

全員「やった〜〜」

みんな食べ終わったころ……

奈「かたづけだー！」

成「最後まで頑張ろう！」

海「お〜」

かたづけが終わり・・・ 学校に帰る準備。

帰りのつどい・・・

全員「ありがとうございます」

バスの中で・・・

優「つかれたね」

海「ソーだね」

成「楽しかったけどね」

美「うん！」

亜「またみんなで行きたいな！」

泉「ソーだね」

奈「本当に楽しかったね」

成「うん！」

学校到着・・・

先「みなさん、おつかれさまです！ 家に帰ってしっかり休んでください。」

全員「はい！」

学校到着！（後書き）

読んでくれてありがとうございます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9415n/>

---

信じてます

2010年10月17日20時26分発行